

奉祝 天皇陛下御即位



皇居に向かい万歳三唱



発行所 〒985 塩竈市二森山一番一号

志波彦神社 鹽竈神社 社務所

電話 011(367)1611(代)
FAX 011(365)5510
<http://www.shiroganjin.jp/>



五月一日、新帝即位にあたり踐祚改元奉告祭を斎行。祭典後、境内いっぱい参拝者とともに宮司以下祭員及び祭典参列者一同は、遙か皇居に向かって「天皇陛下万歳」を三唱した。それぞれに日の丸の小旗を持ち、新しき御代を迎えた喜びをわち合ったのだ。感激に涙する方もあり、神社史に残る場面となった。又、御朱印を求め行列は一時表坂二百二段下まで伸びて、閉門時間の午後八時過ぎまで続いた。新御代を喜び神社に参集する人の波は全国同様であったと聞く。御譲位が大方の国民の理解と共感を得たからこそその社会現象であり、改めて日本の国柄を有難く尊く思った。東日本大震災直後と、三年前の「象徴としての天皇のあり方や皇位継承へのお考え」の表明、この二回のビデオメッセージこそは平成の御代の御聖断ではなかったか。先帝は、後奈良天皇の「朕、民の父母と為りて徳覆うこと能わず。甚だ自ら痛む」を引かれて、民の苦しみを救うことができない自らの非力に苦悩する心中を示されている。終戦時に「自分はどうかろうとも、国民を守りたい」と終戦を決意された昭和天皇の御聖断と、何ら変わるものではない。斯様に、「国民と苦楽をともにする」という歴代天皇の大御心を引き継がれて新帝は即位せられた。これを喜び、全国で響き渡った天皇陛下万歳の声、朱印を求める人の波。戦後、学校及び公的機関から皇室と神道を排除するための過酷な占領政策に思いを致す時、これらの穢れを祓い清め迎えた新御代であると実感した。

奉祝 天皇陛下御即位

畏くも新帝陛下には五月一日に践祚あらせられました。

当社では、午前十時より左右宮において践祚改元奉告祭を斎行。塩竈市長を始め、責任役員・総代、崇敬者参列のもと、神楽「悠久の舞」を奉奏し厳粛に執りおさめました。

祭典終了後、左右宮拝殿前において、皇居に向かい、塩竈市長の先導により宮司以下祭員、参列者、参拝者と共に聖寿万歳を三唱しました(表紙写真)。



記帳所

授け、御神酒三千本を記帳者に授与。多くの方々より祝意が寄せられ、五月六日迄の記帳者は一万七百四十人を数えました。

また、天皇陛下の御即位を奉祝するタペストリーを八百本作製し、塩竈市商工会議所の協力のもと、市内各商店に配布掲出し塩竈市を挙げて祝意を表しました。

当社では、「天皇陛下御即位奉祝記念事業」として各種事業を実施しており、今後も継続の予定です。これまでに実施の事業等を以下に御紹介いたします。

拝殿狛犬の

修補寄進

天皇陛下の御即位を奉祝して、責任役員阿部勘九郎氏(阿部勘酒造株代表取締役)により、鹽竈神社別宮・左右宮両拝殿の狛犬二対の修補寄進がなされました。五月二十日に奉納奉告祭が別宮にて斎行され、祭典後、宮司より神納証・記念品が贈られました。

このうち別宮拝殿の狛犬一対は、背に「宝永二乙酉年二月日」「松岡主殿藤原安時献之」との銘文がみられ、前年の宝永元年(一七〇四)に現在の御社殿が竣工したことを祝って奉納されたことがうかがえます。何れも、当社の歴史を物語る文化的財産です。



修補された狛犬(左右宮)



神納証の贈呈

別宮拝殿に

手すり奉納

元責任役員横田善三郎氏・同夫人節子氏の御芳志により、別宮拝殿に手すり一式の奉納がなされました。

五月十八日に奉納奉告祭が



別宮拝殿に設置の手すり

斎行され、祭典後、宮司より感謝状・記念品が贈られました。



感謝状の贈呈

このほか、記念事業として、社内電話設備交換、古神符焼却炉新設、第二講堂渡廊下修理工事を実施いたしました。



第二講堂渡廊下



古神符焼却炉

初代国包脇指

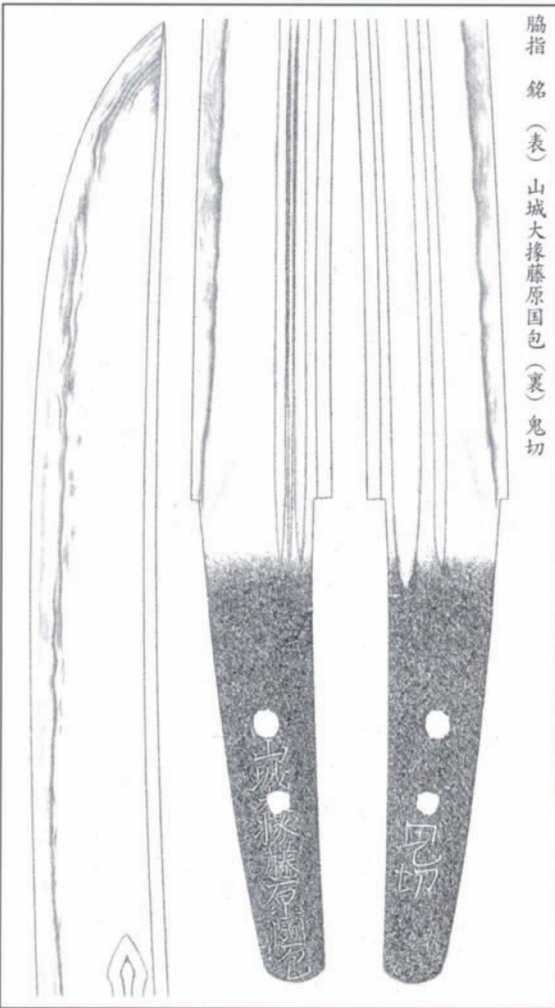
ほか奉納

天皇陛下の御即位を奉祝し、玉田哲也氏(多賀城市在住)より刀剣四振・刀装具一点、金壹百万円の奉納がなされました。六月二十一日に別宮拝殿において奉納奉告祭が斎行され、祭典後に宮司より神納証と記念品が贈られました。ご奉納頂いた刀剣・刀装具は、次の通りです。

- ・脇指 銘(表) 山城大掾藤原国包(裏) 鬼切、長さ三六・三糶、反り〇・六糶
- ・刀無銘(伝・千手院)、長さ七五・一糶、反り二・二糶



祭典後別宮拝殿前にて



脇指 銘(表) 山城大掾藤原国包(裏) 鬼切

・脇指 銘(表) 相模国住人 広光(裏) 貞治三年十一月 日、長さ三六・〇糶、反り 〇・二糶

・刀 銘(表) 雙籠子藤原玉英鍛造之(裏) 応少林君命 弘化四丁未三月日、長さ 七〇・五糶、反り一・三糶

・鉄納戸糸撮菱巻柄 藻鯉図縁頭 銘 仙台住清定、親子鶏図目貫

一六六四)は、伊達政宗公によって召し抱えられ、寛永四年(一六二七)に「山城大掾」を受領、七十三歳で没するまで優れた作品を世に残しました。名人の誉れ高く、まさに仙台藩を代表する刀工です。その作風は、頑健な形状に柃目(まさめ)の鍛え肌、直線的な直刃(すくは)を基調とした力強い刃文をあらわす「大和伝」で生涯一貫しており、奉納の作品にもその特徴がよく見て取れます。特に本作は、同作中でも鍛えが精良で、刃文も変化に富み、同工には少ない平造の脇指である

点からも資料価値の高い一口です。裏銘の「鬼切」は、由来は不明ながら本作の号とみられ、出来栄えを誇って切り付けられたものとも考えられます。

草刈清定は、江戸時代後期の仙台藩を代表する金工の一人です。細い金の線を象嵌(ぞうがん)して図柄をあらわす線象嵌の手法により、麻の葉や紗綾(さや)文などの幾何学模様や、軍配、雨竜(あまりゅう)などの図柄をあらわす作風によって広く知られています。

本作は、柄の両端を補強

する緑(ふち)と頭(かしら)が一对となる金物で、赤銅(しゃくどう)、金と銅の合金)をこく細かな石目地に仕立て、金線により流水のなか藻をかきわけて泳ぐ鯉を細やかに表現しており、清定の典型的な作風がみとれます。鯉は、天に登って龍と化すとの伝説から、出世を意味する図柄として好まれました。

このほか御奉納頂いた作品は、博物館において展示の予定です。

藻鯉図縁頭 銘 仙台住清定



鹽竈神社例祭 七月十日

来る七月十日(水)、鹽竈神社例祭を齋行いたします。

古くは陸奥国司が神事をにない、江戸時代には仙台藩主伊達家が大神主として祭祀を司りました。

当日は午前十時より齋行され、祭典中に特殊神事「御出幣式」が執り行われます。

御出幣式は、別宮・左宮・右宮各御本殿内に奉安されている御神幣を権宮司以下所役三名が奉戴し、七対の御神宝とともに楼門前まで進み、まず南面して左右左の順に振り奉り、さらに北面して同様の所作を行います。これは国家の安泰と国民の平和を祈るも



御出幣式

ので、かつては「御朝参神事」とも称し、筆頭禰宜家のみが相伝する秘事でした。

また例祭奉祝行事として、七月十四日(日)午後二時から流鏝馬神事を齋行いたします。この神事は、宮城郡東部の領主として当社の神事を掌った留守氏により、部下の士気を高めるために始められたものと伝えられています。当日は、別宮・左宮・右宮と三頭の馬を立てて、各三番の騎射が行われます。

このほか神賑行事として、市内小中学生による書道展が絵馬殿にて開催されます。



流鏝馬神事

宮城県無形民俗文化財 藻塩焼神事

七月四日・五日・六日

鹽竈神社例祭に先立ち、市内本町に鎮座する末社・御釜神社では、御祭神塩土老翁神ゆかりの特殊神事「藻塩焼神事」が齋行されます。

「藻刈神事」七月四日(木) 七ヶ浜町花刈浜沖に神事船を出し、ホンダワラ(神馬藻)と呼ばれる海藻を採取する神事

事です。 「水替神事」七月五日(金) 松島湾釜ヶ淵より満潮時の海水を汲み、古い神釜の水を海に返して入れ替える神事です。

「藻塩焼神事」七月六日(土) 海水を煮詰めて塩を取り出す神事です。古代の製塩作法の一端を伝える貴重な神事として、昭和五十四年に宮城県無形民俗文化財に指定されました。

神事で調製された塩は引続



藻塩焼神事

塩竈みなど祭

七月十五日 海の日

七月十五日(月・海の日) やしろと魚のまち「塩竈を挙げての祭典「みなど祭」が齋行されます。

戦後の混乱の中始まったみなど祭は、今年で七十二回となります。当日は志波彦神社・鹽竈神社御両社の大神輿が市内を巡幸ののち、御座船「龍鳳丸」「鳳凰丸」に奉安され、日本三景松島湾を舞台に大小百隻からなる供奉船団を従え海上を渡御します。 みなど祭は平成二十六年に



海上渡御

「第十九回ふるさとイベント大賞」で内閣総理大臣賞第一号を受賞しています。

前日に開催される花火大会や陸上パレードなど塩竈のまちは華やかに賑わいます。

曲木神社例祭

八月一日

八月一日(木)、市内新浜町籬島に鎮座する末社・曲木神社の例祭が齋行されます。

籬島は国の名勝「おくのほそ道の風景地」の一つに指定され、日本遺産「政宗が育んだ」伊達「な文化」の構成文化財にもなっています。

前日夕刻には前夜祭が齋行され、島の対岸では演芸大会が開催されます。

籬島には毎月一日の月次祭と例祭の日のみ渡ることができま

講社だより

各地の講社祭が多く、講員参列のもと齋行されました。各講社の永年勤続講員の表彰・新世話人への委嘱状の交付がなされましたので、御芳名を御紹介いたします。

(敬称略)

仙台千人講大祭

四月二十一日、及川勇講長以下四十九名が参列し齋行されました。

◇五十年表彰

佐浦 克洋

◇四十年表彰

岸 建藏

◇二十年表彰

安齋 千代・佐浦 一久

佐浦 瑞基

◇十年表彰

井上 松治・遠藤 洋

高木 信三・高木登美子

小野 博

新世話人

菊地 宏幸

釜石講社祭

四月二十五日、津田緋沙子講長以下十九名が参列し齋行されました。

◇五十年表彰

小澤 伸之助

◇三十年表彰

白木沢 太一・佐藤 功

小笠原 儀一

◇二十年表彰

菊池 裕子・磯田 幸代

北山 文章・阿部 武子

佐々木 斉・近江 政勝

◇十年表彰

大久保 良雄・阿部 章子

新世話人

村上 良一・小澤 恒雄

新潟亀田講社祭

五月十九日、熊倉清弘講長以下十五名が参列し齋行されました。

◇十年表彰

石本 幸雄

講社大祭のご案内

来る十月十二日から十四日の三日間、講社大祭を齋行いたします。

これに先立ちまして、当社神職が世話人皆様のお宅にお伺いいたします。

皆様の御参拝をお待ちしております。

養成所通信

四月六日、桜の蕾が膨らみ始めたなか、神職養成所の入所式が行われ、一名が神職を志し門をくぐりました。

入所奉告祭のち挙行された入所式では宣誓文を読み上げ、所長の訓示や来賓の方々からの激励の言葉を受け、父兄の見守る中、新たな一歩を踏み出しました。入所式後は、朝の禊、祭

式・雅楽の集中講義が実施され、五月からは祭典奉仕・社頭実習・奉製作業に取り組んでいます。

○新入生

「普通課程Ⅱ類一年」
古谷 竜星(秋田県)

また同日付で左記生徒が二年生に進級しました。

○進級生

「普通課程Ⅱ類二年」
細越 大誉(岩手県)
八重樫 凜(岩手県)

敬神婦人講だより

平成三十一年度総会

四月十七日、社務所大講堂において平成三十一年度総会が開催され、講員一〇三名が参加しました。前年度講務・決算報告、今年度事業計画・予算の承認がなされました。

議事終了後、DVD「天皇陛下 御即位から三十年」を鑑賞し、懇親会となりました。



平成三十一年度総会

巫女 礼作法講習・神楽舞温習

四月十一日に伊達家家伯記念会の仙台藩作法指南役である池田峰公先生をお招きし、来客者の接遇などにおける作法を終日にわたり御指南頂きました。

また五月十六日・十七日、同二十二日・二十三日の四日間、神楽舞の温習が行われました。

藤波祥子先生(亘理郡八重垣神社宮司)の指導のもと、当社独自の一森の舞・海人の舞、また浦安の舞、悠久の舞に熱心に取組みました。



神楽舞の温習

平成三十一年
三月

結婚
おめでとう
おめでとうございます

多賀城市	宮城郡	宮城郡	仙台市	東京都	滋賀県	登米市	塩竈市	塩竈市	仙台市	遠田郡	仙台市	仙台市	巨理郡	塩竈市	多賀城市	福島県	仙台市	千葉県	千葉市	大崎郡	遠田郡
小野	鈴木	本間	作山	赤間	川並	佐々木	菅野	鳴海	佐々木	佐々木	遠藤	遠藤	渡邊	佐藤	秋田	佐藤	熊谷	和泉	和泉	寺田	後藤
悦穂	祐介	良智美	幸子	広和	恵	良輔	聡美	康平	彩乃	優太	葵	葵	悠紀	一葉	沙希	吉弘	榎希	太一	和也	亜希	和也

四月

宮城郡	塩竈市	仙台市	仙台市	フランス共和国	仙台市	仙台市	岡山県	石巻市	石巻市	黒川郡	宮城郡	石巻市	大崎市	東京都	福島県	青森県	仙台市	仙台市	名取市	仙台市	仙台市	岩手県	富谷市	富谷市	登米市
吉田	青木	渡邊	大友	三浦	畑	阿部	知里	哲也	末季	裕信	高橋	伊藤	牧村	栗野	馬目	北村	福岡	阿部	洞口	小松	村上	齋藤	工藤	齋藤	駒場
もえ	勇祐	顕子	翔太	歩	知里	哲也	知里	哲也	末季	裕信	高橋	伊藤	牧村	栗野	馬目	北村	福岡	阿部	洞口	小松	村上	齋藤	工藤	齋藤	駒場

塩竈市	仙台市	名取市	福島県	新潟県	長野県	多賀城市	東京都	多賀城市	フランス共和国	仙台市	大韓民国	塩竈市	塩竈市	新潟県	岩手県	塩竈市	仙台市	塩竈市	岩手県	大崎郡	栗原市	青森県	塩竈市	仙台市	仙台市	フランス共和国
大石	佐藤	岡田	長尾	佐藤	御子柴	高橋	鴻上	佐山	針生	針生	李	遠藤	稲邊	山田	堀川	小野	横山	白岩	鈴木	佐藤	鈴木	須藤	中嶋	伊藤	伊藤	ジルダス・デイゲ
彰子	航希	みずき	隆広	萌	駿	明子	真吾	志帆	みか	正旭	有希	真輝	裕貴	千春	良	千春	麻衣	広臣	結花	秀幸	由香里	弘之	弘之	弘之	弘之	弘之

令和元年
五月

大阪府	福島県	仙台市	仙台市	加美郡	加美郡	宮城郡	青森県	塩竈市	塩竈市	仙台市	仙台市	遠田郡	塩竈市	宮城郡	山形県	塩竈市	塩竈市	仙台市	埼玉県	仙台市	登米市	仙台市	千葉県	仙台市	塩竈市	スウェーデン王国
根岸	河田	古谷	太田	曾根	本郷	米川	境	松並	小幡	伊藤	清水	鈴木	中山	庄司	洪川	佐藤	佐藤	河村	橋本	菊池	佐々木	鈴木	松浦	遠藤	アルム・カールヨハン・ステハン	
ひかる	新平	寛子	一輝	恵利華	裕次	純子	修司	純也	唯	真哉	みなみ	亮	知香	智樹	英介	香	綾華	弘毅	なつみ	良太	亮介	亮介	亮介	亮介	亮介	

塩竈市	石巻市	仙台市	新潟県	多賀城市	塩竈市	黒川郡	黒川郡	大崎郡	青森県	東松島市	東松島市	黒川郡	塩竈市	山形県	大阪府	仙台市	福島県	仙台市	山形県	塩竈市	仙台市	仙台市	多賀城市	仙台市	加美郡	石巻市	登米市
三浦	佐々木	吉田	鈴木	小野寺	土見	千葉	小川	宮崎	沼田	佐藤	阿部	河村	森	佐藤	大西	加藤	鈴木	鈴木	佐藤	木本	磯村	新田	大學	藤本	本田	渥美	島山
輝子	充	まゆ	寛之	藍	大介	いつみ	彰大	明丈	花子	みずほ	拓也	裕美	貴司	有希	正悟	美那	智士	里栄	雅也	遥	潤	恭平	玲未	祐樹	知枝	元延	

国家安泰 五穀豊穰 家内安全

祭事暦 (七月から九月まで)

毎月 朔日 祭

一日 曲木神社月次祭
六日 御釜神社月次祭
十日 鹽竈神社月次祭
二十九日 志波彦神社月次祭

七月 藻刈神事

四日 藻替神事
五日 藻替神事
六日 藻替神事
七日 御釜神社例祭
十日 牛石藤鞭社例祭
十四日 鹽竈神社例祭
十五日 流鍋馬神事

八月 一日 曲木神社例祭

九月 二十九日 志波彦神社遷座記念祭
並びに氏子奉敬会秋季大祭

安産祈願 海上安全 大漁満足

参拝記録

三月から五月にかけて当社を正式参拝された方々を左記に御紹介いたします。(敬称略)

平成三十一年

三月

二日 仙台千人講話人会 八名
十七日 東京都・長島香取神社 三十名
三十日 茨城県神社庁稲敷郡支部 三十名

四月

五日 第四十二回神社総代会幹部研修会 四十五名
六日 福井県・氣比神宮 栗原宏明宮司
二十四日 群馬県神社庁桐生みどり支部
神社参拝旅行団 六十名

令和元年

五月

十六日 亙理郡・八重垣神社 藤波祥子宮司
二十九日 神社本庁協賛員 十七名

文芸欄

御朱印に並ぶ令和の薄暮かな
巫女も出て神事に備ふ溝邊へ
福應寺水音つんで芹摘んで
伏流水の光を放つ夏野かな
潮の香の火照り塩竈櫻満つ
未来人類人体の葉緑素
清明や見慣れし山の神聖に
即位の儀陽ざしの戻る聖五月
一時間待つても食す北寄飯
余花の雨浦曲くもれる勝画楼

神野 礼モン
佐々木 和子
渡辺 智賀
佐藤 みね
太田 サチコ
武田 香津子
横田 みち子
今田 須美子
大友 セツノ
山田 桃晃

小倉百人一首かるた大会

五月十五日、第四十三回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門宮城県予選が社務所大講堂において開催されました。

大会は予選ブロック・初心者ブロックに別れ、九十二名の参加者が張詰めた雰囲気の中、試合に臨んでいました。



かるた大会

銅板奉納御芳名

御奉納いただいた銅板は、御社殿の御屋根葺替えの際に用いられます。

三月から五月にかけて、多くの方より御奉納いただきました。(敬称略)

平成三十一年

三月

広島県 油井 あゆみ
ほか五十三名

四月

栃木県 小野 博子
ほか六十六名

令和元年

五月 秋田県 榎 孝志
ほか六十八名

吟道奉賛会

吟詠・吟舞奉納

日本吟道奉賛会は六月二日、当社御神前に吟詠・吟舞を奉納いたしました。

同会による奉納は今年で五十七回目を迎え、当日は伊藤清洲会長をはじめ、全国からの会員二百数十名が集い、鹽竈神社左右宮にて「鹽竈神社奉納詩」が吟じられました。

奉告祭後、社務所大講堂において、会員らは夕刻まで吟詠・吟舞の日頃の稽古の成果を披露しました。



大講堂での吟詠

人事異動

新任 (四月二十一日付)

釜社守 笹木 さやか

赤巻

天皇陛下御即位奉祝事業は他にも準備・実施中です。順次、御紹介してまいります。(慶)